

3 映像事業

1910～20年代に興ったアヴァンギャルド映画を源流とする、映像表現の可能性を拡張するような実験的な動向に着目し、上映会の開催やオリジナル映像作品制作などの事業を行った。

愛知県美術館コレクション作品 和田淳子 『ボディドロップアスファルト』上映会

デジタルビデオが普及しつつあった2000年に、その技術をいち早く用いて作られた長編として、クロアチアの「第6回スプリト国際新作映画祭2001」ビデオ部門特別賞を受賞する等、高い評価を得た和田淳子監督『ボディドロップアスファルト』(2000年、愛知芸術文化センター・オリジナル映像作品第9弾)の上映を行った。

日時：2017年6月18日(日)午後2時～

会場：アートスペースA(愛知芸術文化センター12階)

入場者：25人

第22回アートフィルム・フェスティバル

「渡辺真也『Soul Odyssey ユーラシアを探して』名古屋初公開 パイクとボイス、そしてマルケル」、「追悼：松本俊夫作品集+新収蔵 伊藤高志『SPACY』ニュープリント上映」、「モノローグ・オペラ『新しい時代』開催記念 前田真二郎作品集」の3プログラムを行った。また「愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品最新第26作初公開」として、草野なつか『王国(あるいはその家について)』(2017年)を初公開するとともに、草野の代表作『螺旋銀河』(2014年)の上映や講演を行った。



アーティストトーク(左：草野なつか、右：澁谷麻美)

会期：2017年11月21日(火)～11月24日(金)、26日(日)

*5日間開催

会場：アートスペースA(愛知芸術文化センター12階)

入場者：597人(延べ)

トーク：2017年11月26日(日)

午後4時～5時 草野なつか『王国(あるいはその家について)』初公開終了後 参加者44人

監督：草野なつか 女優：澁谷麻美

聞き手：越後谷卓司(愛知県美術館主任学芸員)

愛知芸術文化センター・愛知県美術館オリジナル映像作品の制作

本事業は“身体”を統一テーマに設定し、様々なジャンルの作家を登用して、その時代ごとに映像表現の先進的な状況を反映させてきた。平成29年度は、小森はるかを担当作家に選出し、シリーズ通算第27作『空に聞く』(2018年)の制作を行った。

小森は、東日本大震災で被災した陸前高田で、津波で流失した店の跡地にプレハブを建て営業を続ける種苗店取材したドキュメンタリー『息の跡』(2016年)で高い評価を得た。『空に聞く』は、小森が引き続き陸前高田に寄り添うように撮られた最新作で、同地で行われる災害FMの活動と、再生しつつあるコミュニティの姿を、繊細な感覚で掬い取っている。

